

世界の若者 山形奮闘記

第4回

～海外出身の山大卒業生～

私の目から見た山形

山形食品株式会社 劉 永星



私は中国で「雪の国」と言われる黒竜江省で生まれ育ち、雪が降るのにはなじみがあった。初めて山形県の米沢に来たのは、雪の降る季節で、上杉神社の雪灯籠^{ゆきとうろう}の美しさに惹かれた。大好きな山形で5年間暮らし、山形は第二の故郷になった。山形の魅力について考えてみたい。

日本食の中で、大好物になったのはラーメンである。ラーメンは日本の国民食と言ってもいいくらい人々に食べられている。どこに行っても必ずあるし、さらには行列のできる店まである。当初理解できなかったが、ラーメンを好きになってから、その並んでいる気持ちがわかるようになった。中国では麺類を食べるとき、音を立てることはマナー違反とされる。しかし、「郷に入れば郷に従え」のことわざ通り、日本固有の食習慣を学んで、正々堂々と音を立てて麺をすすり、ラーメンのおいしさを最高に味わっている。山形県のラーメンと言えば、酒田市、南陽市、米沢市、長井市など、それぞれに代表するラーメンがあり、各地域の特性を融合したラーメンがおいしくてたまらない。

近年中国では日本への旅行が流行し、ゴールデンウィークや国慶節などに日本に観光する人数が毎年増加している。昨年のゴールデンウィークに、北京の友人が日本に来て、青空、新鮮な空気、きれいな街の風景を見て、絶賛していた。確かに、日本にいと気づかないことだ。日本人にとって当たり前のことだが、友達の目線から見ると、素晴らしい事なのだと思うされた。日本の観光政策や、アベノミクスが導く円安もあって、多くの観光客が日本を訪れ、自然、食材、生活に触れ合うことができ、さらに日本の魅力を世界に発信して

いる。豊かな自然や独自の文化、洗練された町づくり、高く評価されるご当地料理など、これからの地方観光の時代也大いに期待できると思われる。

3年前大学を卒業し、運に恵まれて、今の会社に入った。会社では営業の仕事をしているが、私はこれまで教わったことをできる限り吸収しようと努めてきた。何も知らない状態から、「税抜き、原価、上代」などの専門用語も分かるようになった。また営業はまさに商品を売る仕事であるため、商品に対して、一定の認識を持たなければならない。しかし、営業は技術者ではないので、商品の品質面に弱い。そこで、私は取引先に的確に説明できるように、工場内を見学し、製造担当の方へお願いして、自分の理解できない部分を説明してもらい、勉強している。「わからないことがあれば、恥じることなく聞く」という言葉にも感銘している。

きれいな水と空気、昼夜の寒暖差が大きいことなど自然気候に恵まれて、山形ではおいしい果物が育てられる。尾花沢のスイカ、庄内のメロン、東根のさくらんぼ、朝日町のふじりんご、山形ならではのラ・フランス、ぶどう、桃など果物が盛りだくさん。山形の果物を使って果物ジュースを作る会社であるからこそ、さらに山形の魅力を中国に紹介していきたい。

劉 永星 (リュウ・エイセイ)

中国東北石油大学卒業後、山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学博士前期課程修了。

2013年山形食品株式会社入社。